

日米医学医療交流財団 医学部夏期集中医学英語研修プログラム助成

研修報告書 (2014年度 助成者)

作成日 2014年 8月 26日

氏 名	石黒 賢志 (いしぐろけんじ)
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研 修 期 間	2014年8月13日(水)～ 8月20日(水)
大 学 名	金沢大学医薬保健学域医学類
学 年	第5学年

I. 研修内容

2014年の Medical English Workshop は、Honoluluにある、Hawaii Tokai International College(HTIC)にて行われました。開催期間は8月13日から20日までの7日間で、初日はオリエンテーション、2日目から以下のような内容の講義及び施設訪問が開催されました。参加者の内訳は JANAMEF の5名以外に、Tokai University から7名、Kobe University から5名の学生(全て医学部5年生)が参加し、計17名でした。

①**English Communication(平日午前、1回1時間程度、全3回)**：外国人講師の指導のもと、医療人として Leadership をとるにあたり、それに付随する Communication の重要性、及び Hawaii の文化について学びました。

②**Medical English(平日午前、1回1時間程度、全3回)**：外国人講師の指導のもと、英語での Presentation で重要な発音、姿勢、間の取り方などについて、実際に講師の前で模擬的な Case presentation をすることで実践的に学びました。

③**Medical Ethics(平日午前、1回1時間程度、全3回、最終日に発表)**：医療倫理に関するテーマを3つ取り上げ、学生8～9人のグループ内でテーマについて英語で討論し、最終日にグループ内で決めた結論を英語で Presentation しました。

④**Workshop(平日夕方、1回1時間程度、全3回)**：海外で活躍されている日本人医師の先生方と、英語での問診の取り方、及び Case presentation の手法を学びました。5～6人の学生グループに対し、先生1人が模擬患者として状況を設定され、英語での模擬的な問診、及び臨床推論の演習を行いました。

⑤**Clinical Practice(平日夜、1回2時間程度、全3回)**：John A. Burns School of Medicine(JABSOM)の医学部生に模擬患者となってもらい、④よりもさらに実践的な、1対1で問診をとり、模擬患者さんの ID、CC、HPI、PMH、FH、SH、ROSなどを聴取してまとめ、それを別の部屋に控えている先生方に Case presentation として提示するという練習を行いました。

⑥**Visiting Event(平日午後及び土曜日、1回2～3時間程度)**：平日の午後は HTIC を出て、JABSOM、St. Luke's Clinic、Kuakini Hospital などの医学部・病院施設の見学に向かいました。また、施設見学だけでなく、時には Arizona Memorial や Honolulu Museum of Arts、Diamond Head Hike などの観光名所も訪問しました。

⑦**Special Lecture(平日不定期、1回1時間程度)**：日々の講義とは別に、Pearl Harbor に関する歴史の講義や、Clinical Communication についての講義、臨床留学を取り巻く現状に関する講義などが開催されました。

⑧**Others**：Workshop の1つのプログラムとして Hula & Hawaiian Music の Lesson も組まれており、Hawaii の文化を踊って楽しみながら学ぶことができました。また、Workshop の開催期間中、土曜の午後と日曜日は Free Time だったので、知り合った仲間と Hawaii の市街地や観光名所に出かけて楽しみました。最終日は The Willows という Hawaiian 料理の店で Closing Ceremony が行われ、全講師・スタッフ・学生が一堂に会して、学生1人1人に対して Certification の授与が行われました。

II. 所感

全体を通して：内容の濃い Workshop であり、自分がこの研修で目指していた医学英語力の向上、特にコミュニケーションスキルの向上には非常に役立ったと感じています。海外に行ったことがなかった自分にとっては、生活のあらゆる面で英語を使うこと自体が初の経験でした。実際に海外に行かなければ、英語で上手に表現できないことで、自分の思いを相手にちゃんと伝えられないもどかしさを感じることもなかっただろうし、自分の英語力の足りなさを自覚し、改善するためにはこれからどんなテキストを使い、帰国後どう勉強していけばいいかもわからなかったと思います。そういうことを知れただけでも、自分はこの Workshop が意義あるものだったと感じています。また、それだけでなく、海外留学を志す友人や、実際に海外留学した先生方と多く出会い、実際の経験談や勉強法などをお伺いすることで、海外留学に関する自分の知見を深め、今までは漠然と考えていたのが、将来のビジョンとして描けるようになってきた、ということも自分にとっては大きな収穫でした。研修期間中、大いに遊び、また大いに学び、医学英語だけでなく、Hawaii の文化も学ぶことができました。充実した勉強・Hawaii での生活や観光・志の高い人々との出会い、全てを1週間でいいとこ取りできる、素晴らしい研修だったと感じています。

土日の Free Time に関して：研修の前は、英語漬けになってしっかり勉強したいという思いが強かったので必要ないかな、と思っていましたが、平日のスケジュール(①～⑦)のほぼ全てを毎日こなしました(が想像以上にハードで、丁度研修期間の折り返しに休日の Free Time があったので、むしろしっかり休息して研修後半の英気を養う意味ではかなり必要だったと思いました。

Medical Ethics に関して：テーマ自体に明確な答えがないので、意見をまとめるのが大変でした。発表前日は、1日の講義終了後に図書館や教室に残り、遅い時間まで原稿をつくり練習するグループが多かったように思います。